

音、ネット環境、間仕切りが鍵

有孔ボードで防音対策



クリエイ Suzuki 建設
(千葉県柏市)



▲夫婦2人のための専用テレワークスペース

▼テレワークスペースの需要が増えている



▲ウォークインクローゼットの一角を書斎スペースに



昨年3月頃からテレワークリフォームのPRを開始した同社。テレワ

デスクスペースの需要大

「最も多い需要はデスクスペースと鈴木社長は語る。「一番簡単なのは、ウォークインクローゼットの一角を書斎にする」と。意外にウォークインクローゼットは物が多いので、音を吸収してくれるのでとても良いと思います」

また、テレワークリフォームのみを依頼するケースは少なく、リフォーム時に意識して提案してほしいというニーズが増えたという。

さらに間取りの提案が大きく変わったと語る。家族構成が変わる時にリフォームを行う施主が多く、コロナ禍前は間取りを大きくする傾向が強かったと指摘。現在はもちろん大きなリビングはあるが、それ以外に約2〜3畳の個人スペースがある間取りにしてほしいという問い合わせがあると語る。

3つ
テレワークリフォームの主な設計ポイントは3つと鈴木社長は語る。1つ目は防音。防音対策がされていないと、例えばオンライン会議中に生活音が入ることがあり相手に迷惑をかけてしまう。加えて、社内の情報

2つ目はネット環境。防音に配慮するとインターネットの電波が届きにくくなるため、テレワークスペースの近くにWi-Fiルーターを配置できるように設計する必要があります。3つ目は間仕切り。間仕切りに

ある戸建て住宅の改修事例では2階を全面改装した。6畳の洋室を2畳のテレワークスペース2部屋に区切り、夫婦それぞれ部屋とした。部屋同士が隣り合うため防音を配慮した設計に。断熱材で防音を兼ね、仕上げに有孔ボードを両面に付けることで音を吸収できるようにした。「フック

した。将来的に、広い空間にできるように間仕切りを作っている。施主は夫婦、子ども2人の4人家族。元々子ども部屋を作りたいという思いがある中で、施主が新型コロナウイルスをきっかけに週を半分を自宅で仕事することに。そこで快適なテレワーク環境を手に入れるリフォームへと至った。

傾向はどのようなものがあるのか。最も多い需要はデスクスペースと鈴木社長は語る。「一番簡単なのは、ウォークインクローゼットの一角を書斎にする」と。意外にウォークインクローゼットは物が多いので、音を吸収してくれるのでとても良いと思います」

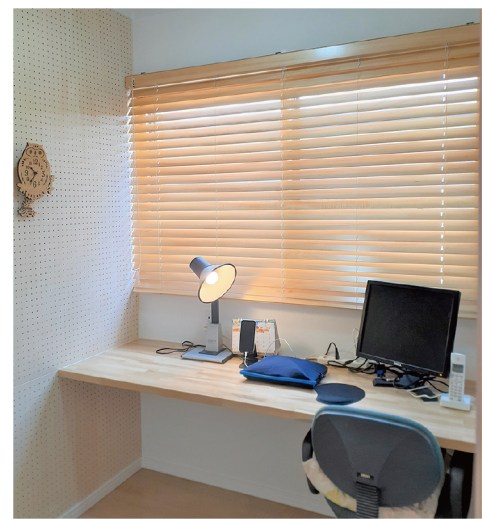
新型コロナウイルス感染症拡大により、テレワークを導入する企業が増えてきた。それに伴い快適なテレワーク環境を求める施主は少なくないだろう。昨年3月、テレワークリフォームのPRをいち早く開始したクリエイ Suzuki 建設(千葉県柏市)の鈴木一功社長にテレワークリフォームの設計ポイントを聞いた。

は漏れないかと思えます。問題は窓と間仕切りですね」

ある戸建て住宅の改修事例では2階を全面改装した。6畳の洋室を2畳のテレワークスペース2部屋に区切り、夫婦それぞれ部屋とした。部屋同士が隣り合うため防音を配慮した設計に。断熱材で防音を兼ね、仕上げに有孔ボードを両面に付けることで音を吸収できるようにした。「フック



鈴木一功社長



▲有孔ボードを採用し、防音対策を行った